# 校 長 室 だ よ り(No.20)

令和３年９月10日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

## 子どもの頃の「体験」は…

県内の学校では、兵庫型体験教育を実施してます。

文部科学省では、平成13年に出生した子どもとその保護者を18年間追跡した調査データを用いて、体験活動がその後の成長に及ぼす影響を分析しました。その結果、小学生の頃に体験活動などをよくしていると、その後の成長に様々な良い影響が見られることが分かったということです。また、小学生の頃に行った体験活動などの経験は、長期間経過しても、その後の成長に良い影響を与えていることが分かりました。さらに、経験した内容（体験活動や読書、遊び、お手伝い）によって影響が見られる意識や時期が異なることから、子どもの健やかな成長を確かなものにしていくためには、一部の経験だけでなく、多様な経験をすることが必要であるということも見えてきました。

**1　体験活動の種類による影響のちがい（多様な体験の大切さ）**

体験を多くすることによる影響を自然体験（キャンプ、登山、川遊び、ウインタースポーツなど）、社会体験（農業体験、職業体験、ボランティア）、文化的体験（動植物園・博物館・美術館見学、音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦など）に分けて分析したところ、自然体験では主に自尊感情や外向性、社会体験では小・中・高校生の時期の向学校的な意識（勉強・授業が楽しい）、文化的体験は全ての意識に良い影響が見られることが分かりました。

**2　体験と家庭環境による影響のちがい**

子どもの成長には家庭環境の要因も影響することが考えられることから、子どもが置かれている環境（家族構成、収入、住環境、親のしつけ）を考慮して体験の影響を分析しました。その結果、小学校の時に体験活動などをよくしていると、家庭の環境に関わらず、その後の成長に良い影響が見られることが分かりました。

**3　家庭・地域との連携の大切さ（多様な体験を保障するために）**

全ての子どもたちが置かれている環境に左右されることなく、体験の機会を十分に得られるように、多くの大人で力を合わせて「多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境づくり」を進めていくことが重要だと言われています。そのためにできることとしては、家庭では「お手伝いや読書の習慣」を身に付けるようにする、地域では放課後などに地域の大人と遊びを通じて「交流する機会」を設ける、学校では「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して地域と連携しつつ「体験活動（自然体験・社会体験・文化的体験）の充実」を図るといったことなどが考えられます。 本校でもコミュニティ・スクールを通じてこのような仕組みづくりを進めていきたいと考えています。